

## 幼児の創造性を豊かにする鑑賞・表現活動についての一考察

—「Coloring」を基にした表現活動—

三 柟 正 典\*

(2017年1月15日 受理)

### A Study on Methodology of Art Expression in order to Enrich Creativity in Infants —Based on the Fine Art Expression of a picture book “Coloring”—

Masanori MIMASU\*

This study focuses on the way of the expression activity to do the originality that an infant has more wealthily through the subject which adopted the method of the drawing for coloring.

The subject use a picture book “Coloring” of PRESTEL company.

**Keywords:** Originality of the infant 幼児の創造性, picture book “Coloring” ぬり絵本

#### はじめに

2008年よりひろしま美術館の平面作品や立体作品など様々な常設作品を題材として美術館の空間の中で鑑賞～表現活動を行い、特に2012年からは、鑑賞した作品の一部の形を抜き取り、その続きを線で描くという「続き絵」の方法を用いて実践し、園での通常の表現活動との変化を見る実践研究を行ってきている。

そんな折今年の夏、ひろしま美術館のミュージアムショップでドイツの出版会社 PRESTEL が発刊している本にふと目が止まった。その本のタイトルは「Coloring (ぬりえ)」。

ぬりえの多くは、幼児や低学年向けで、マンガやアニメのキャラクターを輪郭線を辿ってきた白地に色を塗っていく内容であるが、日本においてもこの4～5年、大人向けのぬりえを目にする機会が増え、その内容は、名画や文様などを中心にジグソーパズルを作っていくかのような細かい内容で趣味の枠を越えるアートにつながる表現として人気が高まってきている。しかし、今回目が止まったのは、いずれでもない。販売が美術館ということもあり題材は、「名画」であったが、今まで目にしてきた輪郭線に沿って出来た白地に色を塗っていく内容とは少し違っていた。名画の部分を切り取り、そこから制作者（読者）があたかもその名画の「続き絵」を描くように輪郭線や着彩が誘導されているのである。本論文では、今までひろしま美術館で実践してきた「続き絵」の方法に PRESTEL 社の「Coloring (ぬりえ)」の方法を取り入れた題材を用いた実践を通し、幼児がもつ創造性をより豊にする鑑賞・表現活動についてのあり方を提案するものである。

---

\* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科教授

## 1. PRESTEL 社の本「Coloring (ぬりえ)」

PRESTEL 社は、1924年にドイツで創立された出版社で、芸術、建築、写真、デザイン、文化史などの分野の画集や写真集を中心に今まで出版し続けている世界で最も重要な出版社のひとつである。その PRESTEL 社が出版している「Coloring」は、各時代を代表する芸術家の作品を紹介すると共に、絵画鑑賞とぬりえを混合させた、とてもユニークな本であり、ワークシートでもある。通常のぬりえ本との違いを以下5点にまとめてみた。



図1 Edgar Degas coloring book 表紙

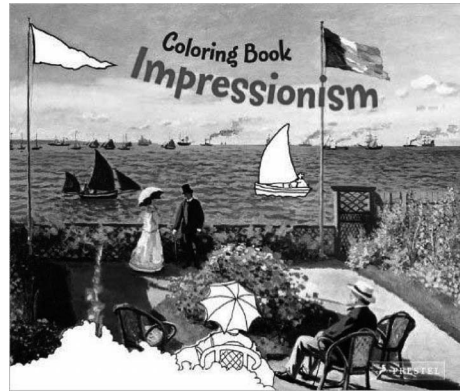


図2 Impressionism coloring book 表紙

1. 作家の紹介が活動(ぬりえ)の方法や鑑賞のポイントとともに紹介されている。
2. 各ページで活動(ぬりえ)の方法が異なっている。
3. 活動(ぬりえ)が終了した時点で終了ではなく、それぞれの鑑賞の気づきから独自の絵の表現への「続き絵」としての余白が残されている。
4. 活動のイメージや感性が働くことができるような導く問いや言葉が添えられている。
5. 取り扱った作品のオリジナルが全作品きちんと紹介されている。

PRESTEL「Coloring」は、30近くの作家をシリーズで発行しているが、Coloringの内容や方法は、それぞれの作家の取り扱う作品によって色々な方法が示されているのが特長である。それぞれのColoringページには、方法を説明する文章が添えられていて、より方法が分かりやすく導入されている。また余白を大きくとっているページが多くあり、自由な発想も作品の中に取り込み、続き絵を描く内容も含まれていることも特長である。

ひろしま美術館で常設展示作品の絵画を題材にその一部を切り出し、その続き絵を自由に描かせる活動を2010年より行ってきたが、今回の実践では、PRESTEL社「Coloring」の方法を取り入れ、続き絵がより自由な発想を寒気させるとともに、題材の絵の中にも入り込んでいくイメージの展開を設定した。



図3 Matisse coloring page

【内容や方法を紹介文】 ページ上部  
Here you can see the artist's studio.  
Maybe you would like to draw the picture in  
the frames?

ここでは、あなたはアーティストのスタジオ  
を見ることができます。多分、あなたはコマ  
の中に絵を描きたいと思うでしょう？



図4 Degas coloring page

【内容や方法を紹介文】 ページ上部  
Ballet dancers were Dega's favorite motif.  
Who else is on stage?

バレエダンサーはドガの好きな題材でした。  
他に誰がステージ上にいますか？

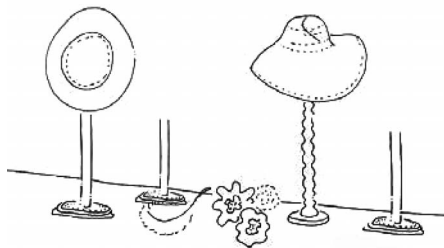


図5 Degas coloring page

【内容や方法を紹介文】 ページ上部  
Here you can design you own hats.  
ここに自分の帽子をデザイン出来ます。

## 2. PRESTEL 「Coloring」の方法を取り入れた実践

1. 実践場所 ひろしま美術館 常設展示室及び中央ホール
2. 日時・対象園 2016年7月8日(金) 聖モニカ幼稚園 年長園児50名  
2016年10月21日(金) ゲーンズ幼稚園 年長園児79名

3. 活動方法 ①美術館の作品を鑑賞  
②表現活動を行う作品の鑑賞  
③配付したワークシートに沿って「続き絵」を描く
4. 活動のねらい ①美術館で実際の作品を鑑賞しその後表現活動を行うことを通して空間や作品をの対話を楽しむことができるようにする。  
②表現活動を行う作品：シャガール作「ヴィテブスクの眺め」を鑑賞して気づいたことを出し合い、絵の部分を抜き出した家の形からどのような場面が展開出来るかという発想を広げて描くことができるようにする。  
③シャガール作「ヴィテブスクの眺め」の作品鑑賞～表現活動から導き出される色々な発見や発想をもとに、一人一人が持っている豊かな「創造性」を引き出すことができるようにする。

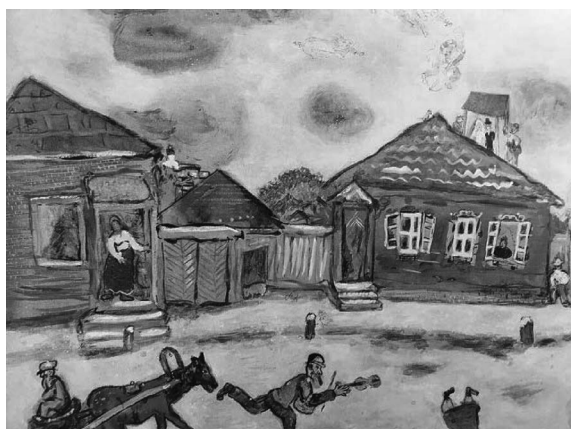


図6 シャガール作「ヴィテブスクの眺め」1924-25

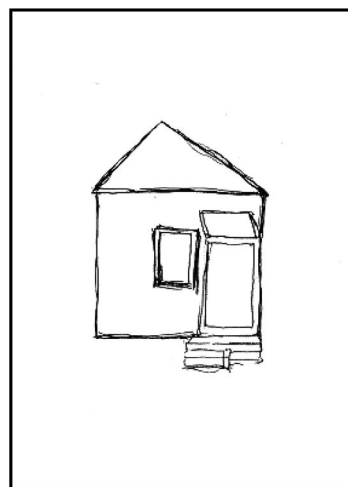


図7 「続き絵」ワークシート

### 3. 考察

2010年より、ひろしま美術館の常設展示作品のピカソの絵から顔の部分を取り出し、その「続き絵」を描く活動を実践してきた。美術館の空間で実際の作品を鑑賞し、その場で表現活動を行う実践は、園児の表現活動に対する関心・意欲を喚起させるだけではなく、一人ひとりをもって個性や創造力を導き出す効果があることが、これまでの実践データで示してきた。しかし、その大きな要因は、題材なのか、美術館の空間なのか、十分に模索することが出来なかった経緯があり、今回は、今までの「顔」という視点ではなくPRESTE「Coloring」の方法の中にみられる作品の画面に自分の発想や気づきを描き加えるという視点をとり入れ、実践に加え、聖モニカ（年長児50名）とゲーンズ幼稚園（年長児67名）の2園で実践した。表1は、実践後に各園の担任の先生に記入していただいた質問表の一部である。

表1と表2はそれぞれの園、表3は2園の-2から+2の割合をまとめたものである。

各園やクラスによって活動の状況に差はあるが、2園の合計は、-2（0%）-1（1.7%）0

### 幼児の創造性を豊かにする鑑賞・表現活動についての一考察

表1 ひろしま美術館「みる・かく・シャガール」の活動後の質問紙

ひろしま美術館「みる・かく・シャガール」  
年長( ) 組 )

※ (美術館での活動とその後の様子) を (美術館訪問以前) の状況を0として+2、+1、0、-1、-2の5段階で評価して該当のところに○印をつけてください。特記する園児がいた場合は右側に文字で記入して下さい。

1	- 2	- 1	0	+ 1	+ 2	
2	- 2	- 1	0	+ 1	+ 2	
3	- 2	- 1	0	+ 1	+ 2	

表2 活動後の様子の割合 (A 幼稚園)

聖モニカ幼稚園50名

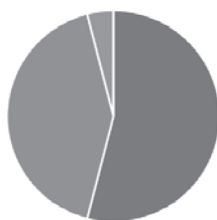


表3 活動後の様子の割合 (B 幼稚園)

ゲーンズ幼稚園67名

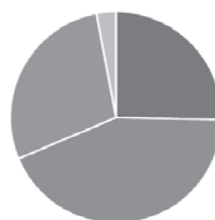
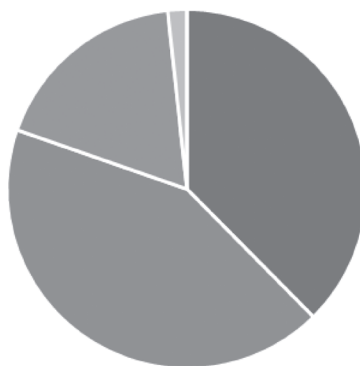


表4 活動後の様子の割合

2園の合計117名



(17.9%) + 1 (42.7%) + 2 (37.6%) となった。

#### 4. 各園の担任の先生のコメント

ひろしま美術館でのシャガールの絵の鑑賞・表現活動終了後、園児のその時の美術館での様子、その後園に戻っての様子などを上記の質問表と同時に記述式で書いていただいた。以下は、その記述文である。

- ・シャガールの絵を見て絵についてお話していたので、どんどんイメージが膨らみ楽しんで描いていました。
- ・子どもたちが描いている姿を見て、身近な家の絵の続きを描くということで描きやすかったと思います。ただ、家、花、人、空、遊具などと普段のお絵描きと似ている子も多いなと感じました。ピカソの顔を続きを描く活動の方が一人ひとり違ったようです。大人だけの感じ方でしょうか…。難しいですね。美術館で本物の作品に触れ、その空間で活動できるのは素晴らしく豊かな経験だと思うので、今後も続けていけたらと思います。
- ・今回のモチーフは「続きを描く」という観点では子どもたちも取り組みやすいものだったように思います。描画活動に苦手意識を持つ子どもたちが抵抗なく描き始めた姿が印象的でした。園に戻ってからも「紙ちょうだい！」と描くことを子どもたちの方から要求する声もあり、すぐにターマトグラフ（色鉛筆）を用意し対応しました。「楽しいね」「もっと描きたいね！」などの声もあがっていました。特に「絵を描くの大嫌い！」とよく言っているお子さんであったにも関わらず、満たされた表情で表現する喜びを存分に味わって取り組んでいる事に驚かされました。
- ・子どもたちにとっては、今回の絵は続きが描きやすかったようです。特にクラスの子どもたちは絵に対する苦手意識もあり、何人の子どもが描くのかと不安でしたが、日頃苦手とっている子どもほど描き始めると「もっと！」とどんどんイメージが湧いてきて面白い絵が見られました。園に戻ってからも美術館で見た絵の模写をしている子どもや絵の具を積極的に「やる！」とっていて、今回の経験が良い刺激になったようです。
- ・まず最初に美術館の絵画を見た時から、子どもたちは絵の迫力や美しさに引き込まれ、絵に興味を持って見ている姿がありました。実際に画材を持ち、描くという活動では絵を描くことが苦手な子どももいたため、全員が参加出来るかどうか最初は不安でした。しかし子どもたち全員が制作スタートの合図で画板に向かっていく姿がありました。活動の前にシャガールの絵を見ながら、自分ならこの家だけの絵に何を描き加えるのかということを全員で共有したことで、子どもたちのイメージも膨らみ、早く描きたい、やってみたいという気持ちが大きくなっていたのだと分かりました。それぞれが画面のなかに人や空や車、生きものなど思い思いのものを描きましたが、先生に見てもらいたいという気持ちもあり、途中で投げ出すことなく画板に向かっていました。園に帰ってからは、今まで他の遊びに夢中だった子どもたちが一緒に家の絵を描き、飾って欲しいと笑顔で持ってきました。完成した絵を眺める姿はとても満足そうでした。また園での絵の具の活動では、「シャガールの絵を描きたい！」と言い、ポストカードの絵を見ながらじっくりと模写する姿や、自分だけの絵を描く子どもたちの姿もありました。思い

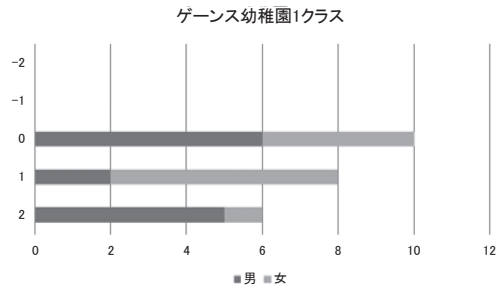
ついたものをどんどん形にしていく姿から、子どもたちの「もっと描きたい」という気持ちを感じ取ることができて嬉しかったです。

- ・シャガールの絵を初めて見た子どもたちは最初何が描かれているのかが分からず、「なんだろう…?」といった感じで、しばらくじっと絵を見つめていました。徐々に絵の様子がわかってくると、笑い出す子ども、友だちに話しかける子どもなど、様々な反応が見られました。その後、絵を見て思ったことを聞かれると「雪遊びしとるんかも!」「いろんな人がおる!」「あっ、あの人ギター持っとる」「お洋服がとばされるよ!」「逆立ちしとる人がおるよ!!」「結婚式みたい!」「誰のおうちかねえ?」「あっ、馬がいる」と絵の細かい部分までしっかり見て、自分がどんなふう感じたかを懸命に伝えようとしていました。その時の子どもたちの様子はとても楽しそうで、友だちの発言に「あっほんまじゃ!!」と共感したり、「え～違うよ、あれは○○なんじゃないん??」と反論したりしながら活発に意見が飛び交っていて、同じ絵を見ても、ひとりひとり感じ方は違うのだという事を改めて感じました。画用紙と鉛筆をもらって、すぐに描き始める子どもや、じっくり考えてから描き始める子ども、友だちの様子を見ている子どもなど様々でした。今回は、家が題材となっていたので、子どもたちにとってとても親しみのある物で、とても分かりやすく、想像もしやすかったようです。みんな描き始めるととても楽しそうで、夢中で鉛筆を動かしていました。例年のピカソの顔を題材にした活動と比べると、描き始めるのが早く、たくさん描き込んでいるように感じました。描いているうちに子どもたちの想像が広がっていき、画用紙の描くスペースが足りないくらいでした。また、「あ、このおうちの庭にはお花が咲いているよ～。あとね、車もあるよ!」と描きながらお話をしてくれる子どもが多く、絵を描きながら想像を膨らませて、自分の物語が出来ているようでした。みんないきいきとした表情で絵を描いていて、とにかく楽しかったようです。「描きたくない。」という子どもは一人もおらず、全員絵を完成させる事が出来ました。園に戻ると早速、ひろしま美術館の画集を手にとって、自分たちが見てきた絵を探す子どもの姿が見られました。今までも画集は保育室に置いてあったのですが、やはり実際に美術館に行った後の方が子どもたちにとって、興味深かったようです。また自分の自由画帳とクレパスを取り出してきて、シャガールの絵の続きを再び描いている子どもも数人いました。園に戻ってからの子どもたちの様子を見てると「とにかく絵を描くことが楽しい!」と感じているように思いました。普段はあまり自分からは積極的に絵を描こうとしない子どもも「○○も描く!」と言って絵を描いていたので驚きました。きっと内面の変化があったのだと思います。

## 5. まとめ

ひろしま美術館での鑑賞～表現活動の題材は、ピカソの人物作品の顔の一部を抜き取り、その続きを描くという活動を4年間行ってきた。今回は、先述しているように、シャガールの描いた風景の作品の一部から続き絵を描く活動で、今までの顔を描く内容と異なり、風景を描き加えるという活動を試みた。各クラスの担任の先生のアンケートなどから見て、今回の題材は子ども（年長園児）にとっては描いているときの様子や実際に描かれている様々な人、風景、物などから見てもとても分かりやすく、一人ひとりの想像や創造の世界を展開して行くことが出来、より豊かな創造性を引き出す事が出来たのではないかと思う。しかしながら、日頃の様子と変わらなかったり、逆にマイ

表5 活動後の様子の男女の割合（1クラス）



ナスとなった園児もいたことが図から伺える。図は、1クラスの男子と女子の割合を示したものである。興味関心の度合によって男女の活動の様子の差も見る事ができる。今後は、男女の興味関心にも視点を置きながら、題材の有効性をはかることが出来たらと考える。

今回のシャガールの絵から「家」をテーマに続き絵を加えていく鑑賞・表現活動から園児の豊かな創造性を引き出す事が出来た要因の1つに、子どもの「絵の世界の物語」をイメージすることが出来る余白がたくさんあったのではないかと考えられる。PRESTEL「Coloring」には、名画を鑑賞し、そこから想像し、自分の世界を描き、加えていくという「絵の世界の物語」の内容や方法などの要素がたくさん詰まっている。今後は、それらの要素をまとめながら、ひろしま美術館の常設展示作品から導き出せる「物語」の要素を見つけ、より園児の創造性を豊かにすることができる鑑賞・表現活動の研究を続けていきたいと思う。

### 参考文献

Edgar Degas 『coloring Book』 PRESTEL. 2011. pp. 1-28  
 Impressionism 『coloring Book』 PRESTEL. 2010. p. 1  
 Henri Matisse 『coloring Book』 PRESTEL. 2009. p. 29  
 ひろしま美術館収蔵作品図録－西洋編『ひろしま美術館』. 1994. pp. 190-191  
 三樹正典「レジオ・エミリア教育の美的活動における「可視化」」『広島女学院大学人間生活学部紀要』広島女学院大学 2014. pp. 41-44  
 三樹正典「レジオ・エミリア教育の美的活動における「可視化」2」『広島女学院大学人間生活学部紀要』広島女学院大学 2015. pp. 55-58



図8 シャガールの絵の前での活動の説明



図9 園児の活動の様子





図10 園児の作品（2園）